# 『イギリス哲学研究』執筆に関する諸規定

## Ⅰ　『イギリス哲学研究』掲載論文の公募要領

論文を投稿する者は、会員であって、投稿時に当該年度までの会費を全納していることを要する。

1．海外誌を含む他誌に掲載済み、掲載予定、投稿中の論文は投稿できない。なお、これに当てはまる論文を翻訳したものも投稿できない。
2．投稿論文の内容によっては、編集委員会の判断により論文審査を断ることがある。
3．論文は邦文または英文を原則とする。形式は『イギリス哲学研究』最新号の「執筆要領」に従うこと。「執筆要領」に記載のない点については、APA、MLA、Chicago Manual など、投稿者の専門分野で標準的なスタイルに準拠すること。ただし編集委員会の判断で修正を求めることがある。
4．投稿は、学会ホームページ上のオンライン・フォーム（掲載論文応募フォーム）による。投稿に際しては、当該オンライン・フォームのページにアクセスし、そのフォームに記載された指示に従うこと。
5．同オンライン・フォームには、氏名、連絡先、論文題目、現在の所属機関、出身大学および大学院等について正確な情報を記入し、投稿論文のファイルとともに提出すること（この情報は、審査員の公正な選定のためのものであり、審査を含めそれ以外の目的に用いられることはない）。
6．投稿論文の審査は執筆者・審査員双方に対し匿名で行う。そのため投稿論文のファイルには投稿者名を記載せず、また科研番号、助成金、元になる口頭発表、謝辞など、投稿者の特定につながる情報も一切削除しておくこと。それらの情報の記載を希望する場合には、掲載決定後に加筆することができる。
7．投稿は、編集可能なファイル形式（doc または docx）にて行うこと。
8．英文アブストラクト（タイトルなどを含めて 100 words を目安とする）についても、提出はオンライン・フォームの指示に従うこと。英文アブストラクトも、ネイティヴ・チェックを受けることが望ましい。
9．受付期間は刊行前年の 4 月 1 日から 6 月 30 日とする。

## Ⅱ　書評への応答制度について

1．学会における議論の活性化のために、書評への著者による応答を認める。
2．応答を希望する著者は 1200 字以内の原稿を、刊行前年の 6 月 30 日までに電子メールの添付ファイルとして事務局に提出すること。
3．原稿中の、表現が不適切と編集委員会が判断した部分については、修正・削除を求めることがある。
4．書評者による再応答は認めない。

## Ⅲ　『イギリス哲学研究』執筆要領

1．邦文の場合は 1 ページ 40 字× 30 行で 10 ～ 20 枚、英文の場合は 5000 ～ 10000 words とする（いずれも注や文献表などを含む）。ただし、英文での投稿の場合は、あらかじめネイティヴ・チェックを受けておくことを条件とする。図表は、邦文の場合は 1 枚につき 800 字、英文の場合は 1 枚につき 300 words に換算し、いずれの場合も上記字数制限に含めるものとする。
2．構成と注の形式
本文中に節を設ける場合は、第 1 節　第 2 節　第 3 節　……とし、さらに項を立てる場合は、1　2　3　……とする。注は、脚注形式とし、原則として word の脚注機能を用いる。注番号は、本文の該当箇所に 1　2　3……と、通し番号を付記すること。
3．外国語文献の翻訳を引用する場合の記号等の表記
（1）原著者が強調のためにイタリック体を使用している場合は、その箇所に傍点を付す。
（2）訳者が翻訳の文意を明示するために語句を補うときは、亀甲カッコ〔　　〕を用いる。
（3）原著者が丸カッコ（　　）やダッシュ ―― を使用している場合は、そのまま丸カッコやダッシュを用いる。
4．文献の指示
（1）参考文献、引用文献の指示には、カッコ方式（author-date system）を用いること。カッコ方式とは、参考文献・引用文献を指示する際、本文中に、（杉原 1980, 102 頁）のように（著者 刊行年, 該当頁）を挿入し、稿末に、それに対応した文献表を掲げる方式である。外国語文献にすでに訳書がある場合は、以下の例のように、その該当頁も併せて表記すること。
（例）
……「すべてを法によって規制するのではなく、個人の自発性にも期待するのである」（杉原 1980, 102 頁）。
……シルヴァーによれば、生産者がその生産活動によって得た所有権を福祉国家的再分配に服せしめることは、権利の侵害であるどころか、窃盗、強奪と称されるべきなのである（Silver 1989, 141）。
……この信念は、英米の帝国主義的拡張に新たな理論的根拠を与えた（Worster 1994, 172/216 頁）。
（2）原著の頁数とともに訳書の頁数を指示する場合は、/ を挟んで原著の頁数と訳書の頁数を並べる。
（例）（Worster 1994, 172-74/216-18 頁）
（3）段落を独立させてインデントの形で文章を引用するときは、前後を 1 行ずつ空け、文頭は 2 字分下げるとともに、文末の句点のあとに、「……である。（大槻 1977, 45 頁）」のように付記すること。
5．文献表
（1）稿末には、文献表見出しに続けて、文献表を作成し掲載すること。外国語文献の場合は、以下の例のように著者の姓名を逆転させ、日本語文献の著者名も含めて「姓のアルファベット順」で並べること。ただし、共著の場合は、最初の著者のみの姓名を逆転させる。
（2）日本語文献（著書）の場合、著者 出版年『書名――副題』出版社。の順に記述する。論文集等の場合は、著者 出版年「論文タイトル」、某編『論文集タイトル』出版社。の順に記す。日本語文献（雑誌）の場合、著者 出版年「論文タイトル」『雑誌名』巻号、頁。の順に記す。

(3) 外国語文献（著書）の場合、著者. 出版年. *書名：副題*. 出版地：出版社. の順に記述する。外国語文献（雑誌）の場合、著者. 出版年. '論文タイトル'. *雑誌名* 巻号：頁. の順に記すものとする。外国語文献の場合、出版社の前に出版地を付記するとともに、書名・雑誌名の部分はイタリック体で入力すること。翻訳がある場合は、大カッコ［　　］の中にその書誌情報を記述すること。

(4) 同一著者の複数の文献を挙げる場合は、刊行年の古い順から並べ、2 回目以降の著者名はダッシュで代用する。同一著者が複数の文献を同一年に刊行した場合には、2004a, 2004b のようにアルファベットを付して区別する。

（例）

**文献表**


Darwin, Charles. 1839. *Journal of Researches into the Natural History and Geology of the Countries Visited by H.M.S. 'Beagle.'* London: Colburn. Reprinted in Paul H. Barrett and R. B. Freeman, eds., *The Works of Charles Darwin*, London: Pickering, vols. 2 and 3, 1986.［チャールズ・ダーウィン（島津威雄訳）『ビーグル号航海記（上・中・下）』岩波書店、1959-61 年。］

Garrett, Don. 2007. 'The First Motive to Justice: Hume's Circle Argument Squared.' *Hume Studies*, 33（2）: 257–88.

一ノ瀬正樹 2011『確率と曖昧性の哲学』岩波書店。

Lindberg, David, and Ronald Numbers, eds. 1986. *God & Nature: Historical Essays on the Encounter between Christianity and Science*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

篠原久 2004「スミスとリード――外部感覚（五感）論をめぐって」『経済学論究』（関西学院大学）58 巻 3 号、573-93 頁。

――― 2008「啓蒙の形而上学と経済学の生成――ドゥーガルド・ステュアートと「精神の耕作」」、田中秀夫編『啓蒙のエピステーメーと経済学の生誕』京都大学学術出版会。

Webster, Charles. 1986. 'Puritanism, Separatism, and Science.' In Lindberg and Numbers 1986, 192-217.